櫻園通信15号

櫻園通信 15　平成 26 年 8 月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先：老年学情報センター

なぜ加賀藩屋敷に開設？“養育院”という名の由来は？

じつはまだ解けていない　養育院開設２つの謎

老年学情報センター：宮本孝一
監修　顧問医：稲松孝思

明治五年、ロシア皇子アレクセイ来日に際し、東京市中の貧民を一ヶ所に集めて収容することから養育院の歴史が始まりました。

そのとき貧民の収容先になったのが、本郷の加賀藩邸内の長屋でした。

当時加賀藩邸には、最後の加賀藩主前田慶寧（よしやす）が居住していました。

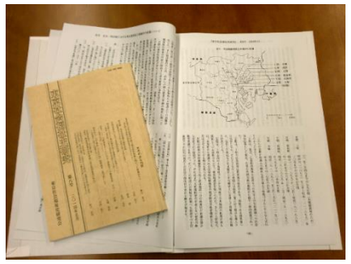
前田慶寧

なぜこの元藩主の住んでいる藩邸内が貧民収容にあてられたのかその理由を記述した歴史史料は見つかっていません。また、現在の春日通りに面した消防署のあたりに長屋があったとされてきましたが、異論もあります

長沼友兄氏（養育院・渋沢記念コーナー維持ボランティア参加）が今年発表した論文「明治期における東京養育院立地場所の変遷について」によると、廃藩置県後の明治五年春の時点では、屋敷は政府に上げ地となり、司法省と東京府の協議により、加賀藩邸内に小伝馬町の牢屋敷を移して囚獄を建設することが決まっていました。また、当時の東京府囚獄掛は、病気の囚人や十五歳未満の囚人を収容する**浅草溜**も管理していました。

明治五年十月、貧民たちはアレクセイ来日前に囚獄予定地であった加賀藩邸内に一旦集められ、五日後には浅草溜に移されます。

養育院創設の地が加賀藩邸になった経緯には、貧民と犯罪者を同一視する為政者の貧民観が作用していた可能性があります。


長沼友兄「明治期における東京養育院立地場所の変遷について」東京社会福祉史研究　第８号
拡大コピーした冊子を養育院・渋沢記念コーナーに置いていますので、ぜひご覧ください。

前田慶寧は、13 代藩主前田斉泰（なりやす）と正室溶姫（11 代将軍徳川家斉の21女）の間に生まれました。

江戸時代、大名家に嫁いだ将軍家の子女が住む御殿には、朱塗りの門が作られました。前田斉泰と溶姫の婚姻の際にも加賀藩屋敷に朱塗りの門が建てられました。それが現在の東京大学の赤門です。

前田慶寧は江戸本郷の加賀藩屋敷で生まれ、約40年の生涯の 7 割の期間は本郷の屋敷で暮らしました。本国金沢に住んでいたのは約 12 年間だけです。明治 4 年の廃藩置県後は東京（本郷の前田邸）に戻りますが、本郷屋敷の約 1/10 の占有を許可されています。

近衛文麿（34・38・39 代総理大臣）は慶寧の孫、近衛文麿の娘と細川護貞の子が細川護熙（79 代総理大臣）です。

旧幕府の重臣だった**大久保一翁**は明治五年に東京府知事に就任すると、東京営繕会議所（幕府による困窮民救済積立資金の管理運用を委託された、有力実業家たちの民間組織）に対し、幕府瓦解後に東京にあふれた大量の困窮者の保護施策の実施を働きかけました。

大久保一翁

これが同年の養育院設立につながります。

大久保一翁は、幕臣時代から、江戸に西洋式の救貧医療施設をつくるプランをもっていました。運営資金の確保方法、施設の内容などを**病幼院創立意見**として具体的にまとめ安政四年に幕府に提案しましたが、幕末の政治的混乱のさなかであり、病幼院は実現しませんでした。

当時江戸幕府の開明派は、種痘所の設立、天領・長崎でのポンペによる医学伝習所、長崎養生所の設立など、海外情勢の情報を積極的に収集し、それに合わせた国づくりをめざしていましたが、一翁もその一人です。

病幼院創立意見は、大久保一翁が東京府知事になることで営繕会議所附養育院と東京府病院（府下病院・愛宕下病院とも呼ばれた）という双子の施設として実現しました。

加賀藩では、黒船来航後は海防意識が高まり、前藩主**前田斉泰**（まえだ なりやす）により洋学者の登用と西洋兵学・西洋医学の研究・教育にとり組んでいました。シーボルトに学んだ藩医黒川良安や、西洋砲術の指導役として採用された洋学者**佐野鼎**（かなえ）らを登用していました。佐野は、加賀藩の援助で、幕府の遣米使節団・遣欧使節団にも随行し西洋の知識を深めました。

佐野　鼎

福沢諭吉

養育院創設の地、東京の加賀藩邸に住んでいた“最後の加賀藩主”**前田慶寧**（まえだ よしやす）もまた、幕末の金沢で、大久保一翁同様に西洋の知識を得て、西洋式の貧民用病院を創ろうと考え、藩医黒川良安に永作養生所を見学させ、貧民病院「卯辰山養生所」の設置にこぎつけています。

東京養育院の名の由来は、もしかすると、この福沢諭吉の日記写本で開明派大久保一翁らの目に触れた**養育（じつは盲）院**かもしれません。ちなみに、明治以来の東京養育院の事業内容は幕末洋学の知識では西洋の「貧院」にあたります。

前田慶寧の卯辰山養生所設立は、福沢諭吉の「西洋事情」の影響とする説がありますが、養育（盲）院が記載された「西航記」写本も手にしていた可能性があります。

養育院創立の地が加賀藩邸であること、「養育院」という名称がつけられたことには、前田慶寧の意向がなにか影響したとも考えられます。

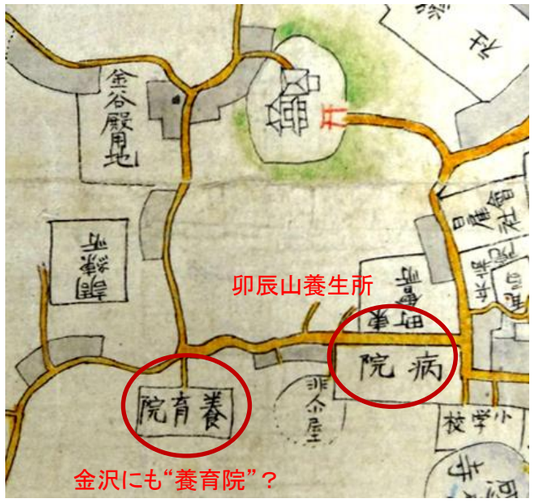
遣米使節団・遣欧使節団には**福沢諭吉**も随行しており、そのときの見聞は「西航記」という日記やそれを発展させた「西洋事情」としてまとめられ、帰国後、外国奉行・開明派や洋学者たちの間で読まれ、西洋社会の知識が共有されました。

福沢諭吉のパリ滞在時の日記に、病院・養老院・養幼院・養唖院・養癲院（精神病院）・といった医療施設・福祉施設のひとつとして**養育院と読める言葉**が一箇所だけでてきます。

その部分ではどんな施設なのか説明がないのですが、日記の他の箇所と合わせてみると、これは盲学校のことらしく**養盲院**と記したと考えるのが自然です。

実は現代に活字化された「西航記」では**養育（盲）院**と、両論併記式に書いています。

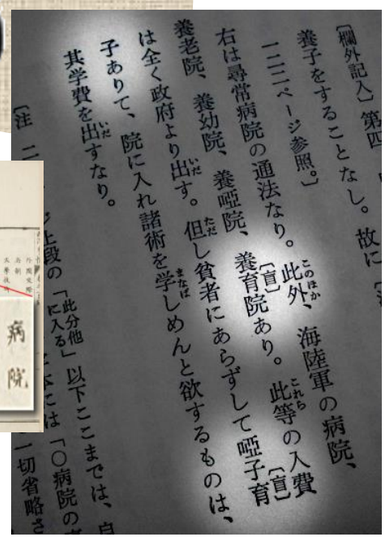
福沢諭吉は養育院と書いたのかそれとも養盲院か、現代でも確定していないのです



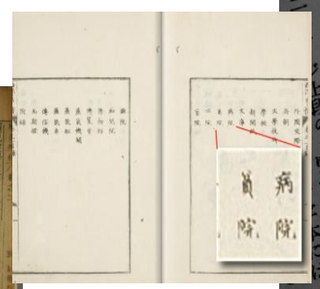
「金沢町絵図」（明治初年）　卯辰山養生所の位置を示す絵図
（金沢市立玉川図書館近世史料館蔵）

コンピューター用フォント
白舟極太草書

福沢諭吉「西航記」
養育院の名が出てくる部分。



イエズス会士のイタリア人艾儒略(Giulio Aleni, 1582-1649)が編纂した世界地理書「職方外紀」。明（中国）で刊行。日本の蘭学者の間で盛んに伝写されていた。


欧米の制度や技術を、自らの渡米・渡欧体験をもとに解説した福沢諭吉「西洋事情」。

【参考】
稲松孝思：赤門の秘密　養育院の黎明期. 老研友の会講演　2014.3
長沼友兄：明治期における東京養育院立地場所の変遷について. 東京社会福祉研究　8 号　2014　p67-89
荒川清秀：加藤周一氏の「明治初期の翻訳」について. 文明 21　1999　p25-26
島田　肇：社会福祉の論理と倫理の課題-福沢諭吉の被治者観と儒教. 東海学園大学研究紀要　2011　p81
富田正文編：「西航記」「西洋事情」. 福沢諭吉選集　1　1980　岩波書店

ペリー来航から明治維新までの期間は一般に「幕末」と呼ばれます。アジアに進出してきた欧米列強が強大な軍事力を示して日本に開国をせまり、鎖国政策は崩壊。不平等な貿易条約を結ばされることになります。　これ以降、日本国内は国防意識が高まり、幕府や各藩で西洋諸国の社会制度・科学技術の研究（＝洋学）が盛んになります。　こうした幕末の時代背景の中で、西洋式の貧窮者救済施設・病院が作られはじめ、さらに大久保一翁という人物を通して明治の養育院開設につながっていきます。

幕府崩壊により、各藩の上級武士や有力商人は江戸を離れ、100万ともいわれた人口が半減。
東京と改称した首都経済は破綻し、幕藩体制での職を失った大量の深刻な窮民が東京中にあふれていた。

黒船来航

明治維新前の 10 年間

明治維新

明治維新後の 10 年間

初代養育院院長
渋沢栄一

家業の農業・藍問屋業に精励

討幕をめざし、横浜焼き討ちなどを画策

慶喜に仕え、幕臣に

パリ万博使節団に随行

静岡藩に商法会所設立

民部省・大蔵省に出仕

営繕会議所（→東京会議所）の運営にかかわる

東京会議所会頭に就任

西洋式の救済施設を江戸・東京に
大久保一翁

目付・海防掛・蕃所調所頭取・外国貿易取調掛など歴任

西洋式貧病院プラン「病幼院創立意見」を幕府に提案するも実現せず。

若年寄・会計総裁就任

静岡藩権大参事に就任

東京府知事就任

教部少輔に異動

洋学の研究・教育施設「蕃所調所頭取」設置

西洋の「貧院」「病院」「幼院」の知識

江戸

静岡藩

東京営繕会議所へ東京府内の救貧策実施を働きかける

養育院事務長就任

養育院院長就任

アメリカの圧力で、日米和親条約締結。さらにオランダ・ロシア・イギリスともつぎつぎ同様の条約を締結。鎖国政策崩壊。

日米修好通商条約締結。さらにオランダ・ロシア・イギリス・フランスと同様の不平等条約を締結。自由貿易開始。

幕府、長崎に西洋医学教育施設「医学伝習所」設置
※ポンペの指導

日本初の西洋医学病院「長崎養生所」設置」

「医学伝習所」と「長崎養生所」を統合

西洋式病院運営の見本
医師の輩出

遣米使節団　随行

遣欧使節団　随行

？

加賀藩邸
文京区本郷

養育院

明治5年
加賀藩邸内に貧民を収容
＝営繕会議所附養育院の開設

明治4年　前田寧慶、東京の加賀藩邸に移住

東京

貧困者を対象にした病院
東京府病院

医師の派遣

「西洋事情」
福沢諭吉

英学を独学

「養唖院」「養盲院」「養幼院」「養老院」などを視察

「西洋事情」刊行

佐野鼎、東京府病院で死去

洋学者
佐野　鼎

長崎遊学

加賀藩に招聘
江戸で砲術指導

兵部省に出仕

共立学校（→開成学園）を創立

西洋の「貧院」「病院」「幼院」の知識

加賀壮猶館で洋式砲術を指導

西洋砲術・兵術・医学の教育・研究施設「壮猶館」設置

幕末の加賀藩主
前田寧慶

加賀藩

西洋の「貧院」「病院」「幼院」の知識

家督相続し加賀藩主に

藩主前田寧慶、金沢に西洋式病院「卯辰山養生所」設置を命じる
※黒川良安、長崎養生所を参考に

加賀藩知事就任

養育院？？

作図　宮本孝一